

外傷サーベイランス委員会会議録

会議体の名称	第 19 回(平成 30 年度第 2 回)外傷サーベイランス委員会
事務局(担当課)	セーフコミュニティ推進室
開催日時	2018 年 12 月 4 日(火) 16 時 15 分～17 時 45 分
開催場所	本庁舎 8 階 804 会議室
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 予防対象や成果指標の見直し状況について 2 各対策委員会へのヒアリングに向けた活動状況報告 3 年間活動レポートの作成について
出席者	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 市川 政雄 2 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 富尾 淳 3 池袋警察署生活安全課長代理 別府 徹係長 4 豊島消防署警防課長代理 長尾 将亨係長 5 豊島区池袋保健所長 佐藤 壽志子 6 豊島区子ども若者課長 副島 由理 7 豊島区保育課長代理 椎名係長 8 豊島区长崎健康相談所長 荒井 和子 9 豊島区高齢者福祉課長 佐藤 重春 10 豊島区障害福祉課長 高橋 隆史 11 豊島区土木管理課長 柴 俊之 12 豊島区治安対策担当課長代理 徳重係長 13 豊島区子育て支援課長 時田 哲 14 豊島区地域区民ひろば課長代理 山本係長 15 豊島区健康推進課長代理 長沼係長 16 豊島区セーフコミュニティ推進室長 澤田 健
配布資料	<p>資料 1 予防対象や成果指標の見直し状況について</p> <p>資料 2 各対策委員会の活動状況報告について</p> <p>資料 3 年間活動レポート2018の作成について(案)</p> <p>参考資料1 第1回外傷サーベイランス委員会 会議録</p> <p>参考資料2 豊島区救急搬送データ分析報告書(2017 年分の分析)</p> <p>参考資料3 セーフコミュニティパンフレット (みんなでつくるセーフコミュニティとしま)</p> <p>参考資料4 行政情報動画チラシ</p>

<p>議事要旨</p>	<p>議事1 (事務局より「予防対象や成果指標の見直し状況」について説明)</p> <p>専門委員: 指標の変更が決まっているのは、高齢者の安全、障害者の安全。その他は今後見直しを検討していくという状況。</p> <p>議事2 (事務局より「各対策委員会の活動状況報告」について説明)</p> <p>専門委員: 各対策委員会から、2月の再認証を受けて新たな動きや課題、ご要望等ありましたら情報共有をお願いします。</p> <p>1. 子どものけが・事故予防対策委員会 委員: 第2回目の対策委員会を1月に開催し、そこで指標の変更が必要かどうかを検討する予定。</p> <p>委員: 今後の取組みとして、近年増えている私立保育園の事故発生データを収集・分析することを挙げている。 7月の第1回対策委員会において、平成29年度の実績を初めて報告したところである。 まだデータの収集がうまくいっていない部分もあるが、今後精査して保育園や幼稚園に情報提供していきたい。</p> <p>委員: 長崎健康相談所では、池袋保健所と共に、子ども事故予防センターの認知度を上げる取組みをしており、概ね周知ができています。 家庭での事故予防実施率については、1歳6ヶ月健診と3歳児健診の際に認知度やけがの発生についてアンケートを実施しています。 今後これ以上何を指標にしたらいいか、現場では悩んでいる状況であり、アドバイスをいただきたい。</p> <p>専門委員: やるべきことをやりつくしているということであれば、それで良いのでは。</p> <p>専門委員: 何かプラスでやるのであれば、健診データと救急搬送データを比較し分析してみてもは。 取組む上での目標はありますか？</p> <p>委員: 子ども事故予防センターの認知度をもっと上げていきたい。近年は外国籍の家庭も増えているので、多言語対応を1つの課題としてあげ</p>
-------------	---

ている。

家庭内でのけが・事故についてはゼロにすることは不可能であるし、周知をしたとしても実践するかどうかは個人の判断によるため限界がある。次の再認証を目指して今後どのようにプラスアルファしていくかが現在の検討事項である。

専門委員:救急搬送データの事故のうち、防げるものがあつた場合には、それを予防する対策を取っていく必要がある。

私個人としては、再認証に向けて新しいことをしなければいけないわけではなく、今取り組めることは全て取り組んでいると言える状況であればそれでいいと考えている。

専門委員:事故の発生率をみると、上がってしまっているように見えるが、もしかしたら小さなケガでも報告するようになってきているのかもしれない。命に関わるようなケガは減っているのかもしれない。ケガの程度を分けてデータを分析できるといいのでは。

2. 高齢者の安全対策委員会

委員:高齢者の虐待については受理件数・相談件数ともに減少傾向である。さらに減らしていくために認知症予防の推進や高齢者の見守り活動の強化を引き続き進めていく。

転倒予防については、「としまる体操」を進めている。区内の「としまる体操」のグループは昨年度末では約30グループだったが、現在は68グループまで増えている。

再認証時に審査委員の方から、高齢者の死亡事故につながるものとして溺れ・窒息について看過できないという話をいただいているので、これを指標に加えようということを7月、11月に実施した対策委員会で検討しているところである。

専門委員:「としまる体操」とは？

委員:2年前に作成した体操。スロートレーニングであり、先生がいなくても覚えやすい内容になっている。口コミでも広がっており、区民ひろばでも活動されている。

専門委員:最近道路より浴室の方が危険とも言われている。それを予防することは1つの指標になると思われる。

専門委員:高齢者が出歩く頻度、活動頻度のデータはあるか？

委員:現在は運動の実施率という形で把握しているが、他にも使えるデータがないか検討していきたい。

3. 障害者の安全対策委員会

委員:今までの5年間は視覚障害者を対象として取り組みを行っている。

外出の頻度が上昇し、けがの頻度は下がっており、取り組みの成果が出ている。

実際に視覚障害者の方に街を歩いていただくまち歩き調査は、5年間で3地域で実施し、危険個所を35か所発見。発見した危険個所について、区や警察等に改善のお願いをしている。

音声による道案内は2016年までに163件作成している。

今後の取り組みとしては、視覚障害者だけでなく、全ての障害者に広げていく。また、現在は手がまわっていない災害対策や避難所の生活等について検討していきたい。

豊島区では平成25年に防災の手引きを作成しているが、内容が古くなっているので、本対策委員会で見直していきたい。

専門委員:「まちのバリアフリーに満足していますか？」という調査結果があるが、満足していないと回答した人は何に満足していないかを調べると見えてくるものがあるのでは。

災害対策に関しては、今ある防災訓練に障害者の方々がどういったら参加できるかを考えていくと良いのでは。

委員:障害の種類によって(例えば車いすの方には点字ブロックは不満材料になる等)意見の相違があり、全ての障害者の満足を満たすことは難しく課題である。

災害時の安全については、障害者がどうしたら防災訓練に参加しやすいか、自助・共助の視点から検討していきたい。

4. 自転車利用の安全対策委員会

専門委員:交通安全教室は回数も参加者も増えている。中学生以下と65歳以上の交通事故の発生件数は減っているが、全体の件数は増えているので、気を緩めずに取り組んでいきたい。

子どものヘルメットの着用率は上昇しているが、7、8割の着用率を目指して推進していきたい。

現在は子どものヘルメットに関して購入助成を行っているが、今後は高齢者も対象としていく。ただ、高齢者の方々がヘルメットをかぶりたいという要望がどの程度あるかわからないので、今年度はニーズ調

査を実施する予定である。

自転車事故の損害賠償は多額になることもあるので、損害保険の加入についてPRをしていく。

専門委員:ヘルメットの着用率はどのように把握しているか？

委員:幼稚園や小学校に調査を依頼している。

専門委員:救急搬送データ（127頁）から、高齢者が頭部外傷が多いということがわかれば、ヘルメット着用の指標として使える。

今後のヘルメットの取組の方向性は？

委員:高齢者の助成を始めるので利用が増えてほしいが、まちを見回すとヘルメットを使っている高齢者は見かけない。助成の要望は出ているので、助成をすることで着用率をあげていきたい。また、来年度からは職員にもヘルメットの着用を奨励し、ヘルメットの着用を広めていきたい。

専門委員:フランスではヘルメットの着用を進めている。キャンペーンの効果というよりは、周りの人がかぶっているのを見てかぶることがカッコ悪いという意識がなくなったという意見がある。区の職員がかぶるより、たとえば区の団体にまとめて贈呈して、かぶって走ってもらうことでヘルメット着用への抵抗感を減らすということを提案させていただく。

5. 繁華街の安全対策委員会

委員:防犯カメラの設置補助、通学路カメラの整備、都によるカメラ設置助成等により、カメラの設置数は増えている。今後は町会加入率100%を目指していく。

パトロールは環境浄化団体が増えたことなどにより回数も人数も増加傾向。刑法犯は最大16%減少している。

専門委員:防犯カメラはほぼ設置済みとのことだが、カメラの死角になる場所がどのくらいあるかを見ていく方法もある。

刑法犯の認知件数が平成27年から平成28年にかけてかなり減っているが要因は？

セーフシティ作戦とは何か？セーフコミュニティとは違うのか？

	<p>委員: 刑法犯のデータは都のデータを参照しており、減少の要因は把握していないので、今後検証していきたい。</p> <p>治安対策課・土木管理課・環境保全課が協力して、路上看板条例に係る対策や客引き防止、ポイ捨て防止を進めている。</p> <p>7. 児童虐待の防止対策委員会</p> <p>委員: 児童の虐待相談・通告件数のうち、新規受理件数は今年10月末現在で332件となっており、昨年10月末現在の246件と比べて増えている状況。本年3月に目黒区で5歳女児が虐待によって亡くなるという痛ましい事件があり、その影響もあると思われる。</p> <p>今後の取組みとしては、虐待のリスクの高い乳幼児健診の未受診者に対して安全確認を行い、未然防止を図る取組みを今年度から開始する予定。</p> <p>専門委員: 豊島区は外国人が多い。外国人に対するアウトリーチはどのように行っているか？</p> <p>委員: 育児訪問等で自宅に訪問するケースがあるが、言葉が通じないため、訪問しても出てきてもらえなかったり、手紙を送っても通じなかったりすることが多い。そこで今年から訪問の案内を6カ国語で作成したところ、少しずつ出てきてもらえるようになった。</p> <p>9.. 自殺・うつ病の予防対策委員会</p> <p>委員: 過去5年間においては自殺は減ってきているが、豊島区は若者の自殺数が多い傾向。自殺は原因分析が難しいが、医者の中では、自殺は単一の原因によるものではなく、複数の要因が重なっておくという考え方がある。また、自殺する人は自殺する前に何らかの相談をしているケースが多い。相談された方が次の支援につなげることが極めて大事。自殺を防げるようにゲートキーパーの講習等を実施し、養成を進めている。</p> <p>若い人向けには、東京都でラインの相談が始まったので、その周知をしていきたい。</p> <p>今後の取組みとしては、今年、自殺対策計画を策定する予定。目標とするところも取り組みもセーフコミュニティの考え方とほぼ同じなので、現在行っているパブリックコメントを経て最終的にまとまったものに準拠した形で、セーフコミュニティの方も取りまとめをしていきたいと考えている。</p>
--	--

	<p>専門委員:自殺する人は相談することが多いということだが、相談先はどのようなところか？</p> <p>委員:相談先のデータはないが、身近な方に相談するケースが多い。</p> <p>専門委員:自殺の手段について特徴はあるか？また、区内で自殺しているかどうかというデータはあるか？</p> <p>委員:自殺のデータは人口動態統計をもとにしているが、人口動態統計は医者の診断書を元に作られたものである。一般的には首つりや飛び降りが多いと思われる。</p> <p>委員:救急搬送データからみると、2016年のデータでは、刃物、睡眠薬、首つり、薬品、飛び降りの順になっている。人口動態統計と救急搬送データを突合することは難しいので、区民が区内で自殺しているかどうかは把握できない。</p> <p>専門委員:自殺しやすい、例えば飛び降りるための屋上に入りこみやすい建物や、飛び込みしやすい線路があるとすれば、それが対策の対象になるのでは？</p> <p>委員:それらについても議論したが、統計は出てこなかったが、社会的にも自殺のしやすい場所を減らす取り組みは行われており、例えばJRや私鉄で作っているホームドアがある。</p> <p>専門委員:青森県では練炭による自殺が多かったため、練炭を気軽に買いくくするために対面販売に切り替えたところ、練炭による自殺が減った。</p> <p>地域区民ひろば</p> <p>委員:区民ひろばは対策委員は無いがセーフコミュニティの拠点として相互協力している。</p> <p>セーフティプロモーション事業への参加は、「介護・転倒予防」や「認知症予防」といった高齢者対策に関しては多くなっているが、子どもに関してはまだ少ない。ただ、ミニキッズセーフ事業については、ひろば等でPRコーナーを設置している成果もあり、認知度が伸びている。前回の再認証の際にも指摘されたことだが、区民ひろばは区民の方がいつでも利用できる施設なので、継続して参加することが難しく、指標が立てづらい。</p>
--	--

	<p>高齢者福祉課から、各事業の初回と最終回に測定し、成果を検証したらどうかというご提案をいただいた。測定は高齢者福祉課にご協力いただけるとのことなので、実施していきたい。</p> <p>ひろばは救援センターに指定されているので、子ども若者課と協力して訓練を進めながら、防災についても力を入れていきたい。</p> <p>議事3 (事務局より「年間活動レポート2018の作成」について説明)</p>
--	---